

5/19

出送管送等協生 出送管送等協生 出送管送等協生

生協の総代選挙(生協は最高議決機関として総代会を構成する総代を各選挙区(二部は各学部から選出する)が行なわれようとしている。

市代における現職の貧困で苦しむ学生・他学条件の中で、生協に対する期待と要求は強まっているが、生協は昨年来の封鎖の中、大々的赤字を出し(しかもかわらず、理事会、総代多数は封鎖を支持)そのために、卒業生に200万円の公資金を返さず、しかも、食堂のうどん・ラーメン類の値上げ書せきの五分減の廃止など、なしくずしにおこなわれている。

このような現状の中で、生協運営に組合員の要求や意見を十分に反映させ、民主的に運営させることは、極めて重要である。しかし、毎年の総代選といえ、極めて投票率が低く、総代会と多くの委員候補はければ成立しない。そして、すべてのことが理事会によつてはこぼれていっている。そして、今回の選挙も同じ様にはこぼれていくとしていく。

この総代選挙に先だって、生協理事会は、送管の候補者を公募した。(定款規約では、その後、理事長が選ぶことになる)そして、一五日のメロメロに、一部では十三名(医学部一名、その他学部三名)ずつを候補とした。この送管について、我々六名は「定款で定められているのは各学部一名以上となっている。それを理事会は一名と公募している。送管を公正民主的に進めるためには、せめて公正な送管選出をする必要がある」旨を理事長、常任理事に申し入れた。にもかかわらず、その申し入れを完全に無視し、十六日の理事会において、申し入れを行なった者六名全員をシャットアウトし、一方向を強行に進んだ。

この送管過程の中には、多くの重要な問題を含んでいる。それは
①申し入れを行なった者全員をシャットアウトしたにもかかわらず、判断には何の基

準もない(山上理事)という

②一五日午後五時メロメロ、現在を候補している人々に人間が選出されている(一部経済学部本城、二部商学部三輪)

③この送管になった人達の中には、工学部井尻、法学部谷口等学内でさんざん暴力を働か(法学部谷口は、法学部集会、学生総会、新入生歓迎会等に暴力でなぐりこみ、破かいした)民主主義ナンセンスを叫ぶ人達を、最も、民主的運営を必要とする送管に入れた

④申し入れた人達の中には、現職代二名も含められており、その二名が現理事会の方針に反対しているのは、理事会も知っているのだから、もし公正な送管とのおおはら、反対意見の人間を送管に加えるのかあきりそのことで、それを明らかにしたのである
⑤一五日、五時までの理事会で決定されたとする送管の名前を、一六日の午後二時現在、理事長は知らなかった。

このような過程をみるならば、生協の民主的発展と公正な送管との間には積極的な人達の声を無視したことは明らかだ。

私達は、今生協に対して、「ならば先に、うまいメシを食べたい」殺意に書せきをおいてほしいという切実な要求、あきり前の要求を叩いている。私達は団結して闘い、生協運営に意見を反映できるならば、すぐにその改善できることはいっぱいある。

私達は、理事会に対して、「これらを要求するとともに、そのためにこそ、今度の総代選挙を、民主的に進め、我々の要求を反映できる送管を選ぼうではないか。

出送管立候補者(久米[4] 育藤[2] はじめ 6名)アピールー我々は告発する